

当局、超低額「有額回答」を提示！

日刊
動労千葉

80.4.12

NO. 401

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電二五八・九・公衆品五二）七二〇七

四月十一日、国鉄本社第一団交室において、賃上げ交渉が行われた。この交渉には動労千葉西森副委員長、山口交渉部長、高橋交渉部員、水野財政部長が出席した。交渉席上、金井・本社給与課総括補佐から、本年四月一日以降一人平均定期昇給分を含め七八六〇円（四・二三％）をひきあげるとの有額回答が提示された。これに対し組合側は、このような低額回答では全く考慮に値いしないと強く抗議し回答を拒否した。

決戦ストで
低額回答打ち破れ！

全組合員の皆さん。

かかる低額回答を許せるのか。この低額回答は、国鉄経営は危機だから、国鉄労働者は合理化に協力し、低賃金＝窮乏生活に耐えろというものである。

われわれは、この低額回答に怒りを燃やし、四月決戦ストをもって、低額回答打破をかちとらなければならぬ。

4・23％の賃上げで合理化に協力せよという国鉄当局

交渉は、十一時四十五分より開始された。当局回答の主旨は、

「国鉄再建のために、再建特別措置法案の成立が不可欠。国鉄自身が再建に努力し、国民の理解を得なければならぬ。かかる中で賃上げは困難であるが再建合理化に期待し、本年四月一日以降の基準内賃金を一人平均三九七二円（二・一四％）引き上げ、これに定期昇給分三八八八円（二・〇九％）を加え七八六〇円（四・二三％）とする」というものであった。

これに対し組合側から、「当局は国鉄再建と称して合理化を一貫して押し進め、国鉄労働者に一切の矛盾と犠牲をおしつけている。そればかりか合理化協力を前提とした低額回答を押しつけることは許せない。当局は再考せよ」と強く主張し、十二時十五分、回答を拒否した。

4・13闘争を突破口に決戦ストへ

全組合員の皆さん。

動労千葉は、四月九日、「闘争指令第八号」をもって、四月十三日より開始される四月決戦スト準備体制確立の指令を発した。

動労千葉の指令のもと一糸乱れぬ闘争体制を作り出し、低額回答粉碎、四月決戦ストへつき進もう。

いざ、春闘決戦へ！ 木更津支部で職場集会
退職者・新組合員の歓送迎会も盛大に開かる

木更津支部では、十日、十二時三十分より勤務以外の全組合員参加のもとで八〇春闘決戦にむけた職場集会を開催し、「八パーセント要求」「ストなし春闘」など右翼的労戦統一策動と屈服路線をのりこえ闘うことを確認した。

集会は、支部長あいさつに続いて、高橋本部執行委員から八〇春闘をめぐる情勢と第五回支部代表者会議で決定された四月決戦段階の具体的取組みが報告され、これを受けて木更津支部一丸となって闘い抜くことが確認された。

さらに、この数年間、新組合員の加入により、青年部員の中から野球部結成の希望が起こり、この職場集会の中に提起され、野球部結成が全体で確認された。また、職場集会終了後、二名の退職者と四名の新加入組合員の歓送迎会が四十二名の参加をもって盛大に開催された。退職者の長年の労をねぎらい、新組合員の活躍を願って和気合のうちに歓送迎会は終了した。

